

[魚 類]

1. 調査概要

(1) 調査目的

宗像市の全域に広がる釣川水系の淡水域に生息する魚類の出現種、分布状況を把握し、前回調査で確認されている種類のうち特に絶滅が危惧されているニッポンバラタナゴ、ドジョウ、ウナギ、メダカ（メダカ調査で報告、ここでは本流、支流で出現したのものについてのみ記録する）等の生息状況についてまとめる。

(2) 調査地

釣川本流及び支流の、原則として底生動物調査地点と重なるかまたはその周辺地域とした。具体的には以下の通りである（図 9-8）。

- 釣川本流：源流部（メッシュ地図の No30）、太郎坊橋（No68）、田久橋（同 No66/56）及び東郷橋（同 No63/64）
- 釣川支流：猿田川（メッシュ地図の No40）、宮川（同 No69）、石井川（同 No59）、名残川（同 No47）、朝町川（同 No16/26/36/54）、綿打川[朝町川の支流]（同 No15/25）、子下し川[朝町川の支流]（同 No25/35）、大穂川[朝町川の支流]（同 No13/04）、八並川（同 No42/32/63）、大井川（同 No62）山田川（同 No95/96/65/64）、横山川[山田川の支流]（同 No93/83/73）、大谷川（同 No91/80）及び樽見川（同 No13/12/02）

(3) 調査方法

浅い場所は手網、淀みや堰下の深みについては投網落とし採集（投網を 2～3 名で広げ垂直に落とす方法）を行った。網目は前回と同じもの、手網（3mm 角）、投網（網目長 18mm）を使用した。また、めだか調査同様、目視法（必要に応じて手網で採集）も併用した。採集個体は、一般的なものは大きさを確認後放流し、確認が必要なものは現地でホルマリン固定後、研究室に持ち帰り分類・同定した。

調査は、底生動物調査と平行して、年間を通して行った。